

平成 30 年度第 2 回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 平成 30 年 11 月 22 日

午前 10 時開会 午後 11 時 35 分閉会

場所 伏見区役所 1 階ホール

次 第

1 開会

区長あいさつ

馬屋原区長から開会のあいさつを行った。

- ・ 区民会議委員の皆様におかれては、各界、各層でまちづくりのリーダーとして様々な分野とお立場でご尽力いただくとともに、伏見区政の推進にご理解・ご協力賜りお礼申し上げます。
- ・ 橋爪座長におかれては、2025 年大阪・関西万博の基本構想立案の中心的役割を担っていただいている。11 月 23 日のパリでの総会で開催地が決定するお忙しい中、お越しいただいた。伏見区としても最後まで応援したい。
- ・ 今年は、明治改元 150 年、市役所開庁 120 年、世界文化都市自由都市宣言 40 年の節目の年であった。文化庁移転の準備も着実に進んでおり、文化を基軸としたまちづくりを一層加速させる年であった。
- ・ 一方で、6 月の地震、7 月の豪雨、8 月から 10 月にかけての大型の台風が発生し、伏見区にも大きな爪痕を残した。地震で被害を受けた京都市内家屋の約 8 割、台風 21 号等では約 2 割が伏見区であり、10 月末時点で合計 1,877 件の災証明の申請を受けている。安心安全のまちづくり、地域防災力の一層の強化を心新たに決意した。
- ・ 基本計画を策定してから 8 年目となり、総仕上げの時期を迎えた。山本深草担当区長、三宅醍醐担当区長とともに職員一丸となって、計画に掲げた伏見区の将来像の実現に向けて全力で取り組んでまいりたい。

新任委員紹介

伏見酒造組合小倉委員、伏見青少年活動センター水野委員の自己紹介を行った。

座長あいさつ

議題の審議に先立ち、橋爪座長からあいさつを行った。

- ・ 来年は、日本で都市計画法が制定されて 100 年目を迎える。昭和に入り京都市も大合併があり、伏見も京都と 1 つになった。周辺部のまちや村々と中心となる都市が、一体化して開発を進めてきた。人口減少、少子高齢化を迎えている中、将来の都市開発が重要になってくる。さらに、国際化の視点も重要である。来年は、G20 の開催、ラグビーワールドカップの開催、再来年はオリンピックが控えており、京都もさらに注目されてくるので、伏見の酒を世界に売り込むチャンスでもある。今後、さらに外国人観光客の増加が見込まれるので、住んでいる方と訪れる方の環境面、文化面等での共存が不可欠となる。

- ・ いよいよ万博の開催が決定する。日本、ロシア、アゼルバイジャンで争っているが、投票権を持つ国が不明である。立候補している都市は、ロシアはエカテリンブルグ、アゼルバイジャンはバクーであり、2カ国はこれまでに万博開催の経験がないことを訴えており、大阪は、豊富な開催経験や実績を訴えている。既に2010年ドバイでの万博が決定しており、中東・アフリカでは初開催となる。2023年には南米初の万博がブエノスアイレスで開催する。初開催が続いており、若干心配している。大阪で開催される場合は、伏見も2025年に向けて国際交流が盛んになるので期待している。

2 議題

平成30年度伏見区運営方針の進捗状況について

(1) 三所共同事業【資料1,2】

伏見区役所、深草支所、醍醐支所の三所共同で行う事業概要について、事務局（川本企画課長）から説明。

<質疑>

橋爪座長

- ・ 伏見区区民活動支援事業の審査委員長である加藤委員からご意見を伺いたい。

加藤委員

- ・ 応募数は過去最多。審査会では各委員が非常に熱心にご議論いただいた。それぞれの事業が今後のモデルとなるような内容になっており、住民主体の伏見らしい活動が開花してきている状況。

橋爪座長

- ・ 重点支援事業ができ、わかりやすくなった。伏見区区民活動支援事業の来年度の補助金の予算額は。

事務局（川本課長）

- ・ 来年度の予算要求額は、今年度と同額を要求している。

(2) 区役所・支所の主な取組（新規・充実事業等）

伏見区役所の主な取組【資料3】について、事務局（川本企画課長）から説明。

<質疑>

谷内口委員

- ・ 「伏見 文化・観光の語り部」の応募状況や今後の展開と「ふしぎく」の伏見区区民活動支援事業へのステップアップの状況を伺いたい。

事務局（川本課長）

- ・ 応募数は12名であり、年齢層は50～70歳代が中心。研修として、伏見観光協会の概要説明や郷土史研究団体の「伏見城研究会」やまいまい京都のご協力のもと、座学研修やまち歩きを行っている。ガイドとしての経験値は様々なので、研修や自己研さんを通して、まずは、伏見区役所周辺のエリアの紹介を予定している。
- ・ 蔵ジャズ、チンチン電車の会等は「ふしぎく」からステップアップした活動。

高橋委員

- ・ 伏見区健康づくりサポーターの養成や地域に出向いた健康教室等の取組について窓口を含め取組の詳細を教えてください。

事務局（山根保健福祉センター長）

- ・ 伏見区健康づくりサポーターの養成については、年間計画を立て、研修等を行い、人数の確保に努めている。健康教室は、伏見区役所で毎週水曜日に開催しており、100名程度が参加している。神川地区でも、同様の取組（第1、第2、第3木曜日）を実施しており、50名程度の参加があり、取組の定着が進んでいる。その他のエリアについても取組を進めていく。業務の窓口は、健康づくり推進課が担当である。

馬場委員

- ・ 伏見桃山・中書島ゆらふプロジェクトのメンバー、誘客イベントについて伺いたい。

事務局（村重まちづくり推進課長）

- ・ 地域の7商店街、文教大学、交通局、伏見区役所が一体となって取組を進めている。誘客イベントとして、2月にキャンペーンを予定している。閑散期対策として各店舗から熱燗、ぜんざい等を振る舞うなどの温かいおもてなしを行うイベントを開催する予定。交通局ともタイアップし、バスや地下鉄の1日券を発行し、各店舗での優待も受けられる予定。

寺内委員

- ・ 民泊が話題になっている。民泊反対の張り紙も見かけ、外国人観光客に対してあまり良い意見も聞かない。一方、バックパッカーとして東南アジアへ行った息子などは楽しかったと話しており、同じように伏見に訪れる外国人観光客も楽しかったと感じていただけたら良い。伏見区役所として、外国人観光客に向けた取組はどのようなものがあるか。

事務局（川本企画課長）

- ・ 京都市としては、違法民泊は認めておらず、民泊整備に向けて取組を進めている。市全域においても観光公害と呼ばれる住民、観光客との摩擦の解消が課題となっている。外国人観光客にもある程度は、日本の文化や風習に沿っていただく必要があると考えており、敵視や受け入れない態度が定着してしまうと日本に対する悪印象に繋がりがかねない。住んでいる方と訪れる方とのバランスがとれるように区役所でも取組を進めており、観光MICE推進室が中心となって改善に向けた取組を進めている。

深草支所の主な取組【資料4】について事務局（加藤まちづくり推進課長、長谷川大岩街道周辺地域環境整備課長）から説明。

<質疑なし>

醍醐支所の主な取組【資料5】について事務局（水谷総務・防災課長）から説明。

<質疑>

土田委員

- ・ 一人暮らし高齢者の見守りについて、老人福祉員の訪問対象世帯の分担を明確化

するのは、我々も13年来取り組んでいるが中々、難しい。守秘義務の問題についてはどう考えているのか。

事務局（池部保健福祉センター長）

- ・ 各学区でこれまでから取り組んでおり、民生児童委員、老人福祉員が協力して、見守り活動の訪問対象世帯をそれぞれで明確化している。まずは、民生児童委員や老人福祉員、地域包括支援センター、区役所等の関係機関で、情報共有を図っている。

三宅区長

- ・ 民生児童委員、老人福祉員もそれぞれが守秘義務を持っており、関係委員内のみで情報共有を図るものである。見守り対象となる方が漏れることのないよう取組を進めていきたいと考えている。

<伏見いきいき市民活動センター，醍醐いきいき市民活動センター，京エコー
ジーセンター，伏見青少年活動センターから配布資料について説明>

3 閉会

副座長あいさつ

村井副座長から閉会のあいさつを行った。

- ・ 皆様ご苦労さまです。基本計画にも掲げている「皆でつくる すむまち伏見」を区民、事業者等と行政の協働により推進するに当たり、幅広く意見を求めることを目的に開催している。
- ・ 西日本屈指の行政区である伏見について話し合う場であり、加藤先生が委員長を務める伏見区区民活動支援事業や伏見連続講座など様々な取組がある。そして橋爪先生もおられるので、伏見に住んでいる我々が、将来の伏見をどうするのかという議論ができれば良いと思う。大阪・関西万博の誘致が決まれば2025年に万博も開催される。伏見は、東海道57次の拠点であったことなども踏まえ、将来のことについて考え、行政との協働で取組を活性化したい。今後、橋爪先生も万博などでますますお忙しくなると思うが、ご一緒に伏見のことを考えるというスタンスで将来に渡って歴史ある伏見のまちづくりを夢、ロマンをもって考えていきたい。橋爪先生には引き続き、ご尽力をよろしくお願いしたい。